

演題名	特別養護老人ホームにおけるオムツ代の削減				
施設名	ケアポート板橋		(ふりがな) 発表者(職種)	なかい まさむね 中井 政宗 (介護福祉士)	
(ふりがな) チーム名	りだくしょん reduction				
分類	④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの				
取り組種別	問題解決型				
改善しようとした 問題課題	介護業界を取り巻く環境は、非常に厳しいものである。直近の調査によると、介護施設の6割以上が赤字経営である。施設の主な収入源は、介護報酬による為、経営努力による大幅な増収が見込めない現実があり、収入を大幅に増やすには、人件費の抑制、経費に削減といった手段が考えられる。介護職員が行う事が出来る経営的な努力は、経費削減だと考え、T型マトリックス図を用い評価を行い、今回のテーマに取り組む事としました。				
改善の指標と その目標値	(指 標) オムツにかかっているコストを (目標値) 10%下げる(令和5年11月末までに)				
実施した対策	①オムツ補充に関するマニュアルを作成する ②オムツの発注管理を定数管理で行う ③オムツの選定方法として尿量測定と腹部大腿部の周囲測定を行う ④尿量測定に関する資料をフロアで周知する ⑤動画を準備し、繰り返し学ぶ事ができる				
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) 437,302円(ひと月当たり) (実施後) 390,901円(ひと月当たり) 46,401円削減				
歯止めと 標準化	標準化:オムツの定数発注を、無駄なく行うため、排泄委員が1カ月に1回確認する 教育:オムツの当て方を、正しく行う為、教育委員が1年に2回、動画視聴させる 管理:オムツの選定を、統一して行う為、排泄委員が、3カ月に1度、マニュアル化する				
活動の種類 ※複数選択可	②複数の職場が連携した活動 ③テーマに合わせて形成したチーム活動		チーム メンバー (職種)	1	永森 敬太 介護福祉士
活動の場 ※複数選択可	④その他			2	吉沢 淳 介護福祉士
				3	中井 政宗 介護福祉士
				4	西村 望奈未 介護福祉士
				5	佐山 いずみ 介護福祉士
活動期間	令和5年4月 ～ 令和5年12月		6	岡田 直也 介護福祉士	
リーダー名 (職種)	吉沢淳 (介護福祉士)		7	伊藤 智恵美 介護福祉士	
活動回数	14	回	8	稲垣 卓美 介護福祉士	
			9	佐藤 勝利 介護福祉士	

【テーマ選定・背景】

介護業界を取り巻く環境は、非常に厳しい状態である。調査によると、特別養護老人ホームの経常利益は年々減っており、赤字経営の施設割合は6割を超えている。施設の主だった収入は介護報酬である為、経営努力による大幅な増収は見込めない現実があり、わずかでも、収入を増やして行くためには、経費を抑えていく必要がある。介護職員が行う事ができる経費削減として、水道光熱費、オムツ代、残業代の削減等が考えられた。施設、職員、ご利用者の3方にとってメリットがある事は、オムツ代の削減ではないかと考え、今回のテーマに取り組む事としました。

テーマ選定(マトリックス図)

評価点	ウエイト		施設理念 取り組みたい テーマ	評価項目	ウエイト付け						評価点	総合点	
	×1 CSの向上	業務改善の向上			サービスの向上	×2				×1			
						改善の要求度				解決可能			
						利用者ニーズ	部門目標	緊急度	重要度	期間内終了			データの取りやすさ
10	○	○	オムツ代の削減	△	○	○	○	△	△	42	52		
8	○	△	水・光熱費の削減	△	○	○	○	○	×	40	48		
8	○	△	残業時間の削減	×	○	○	○	○	△	40	48		
8	○	△	コピー代の削減	×	○	△	△	△	△	30	38		

評価点 ○5点 △3点 ×1点

テーマ選定の背景

特別養護老人ホーム収支報告 年度別収支

【特別養護老人ホームの令和4年度決算値】全国老施協・収支状況等調査(速報)

	H30	R1	R2	R3	R4
施設数	1,236	1,513	2,010	1,930	1,600
定員数	68.9	70.4	70.0	70.0	69.2
サービス活動収益対 (補助金除く)	2.1%	1.8%	1.3%	0.8%	-2.8%
経常増減差額比率 (補助金含む)	2.5%	2.1%	2.3%	1.5%	-0.5%
赤字施設の割合 (補助金除く)	33.8%	34.3%	40.8%	43.0%	62.0%

※赤字施設割合は、R4は速報値、R3は確定値、R2は速報値、R1は速報値、H30は確定値

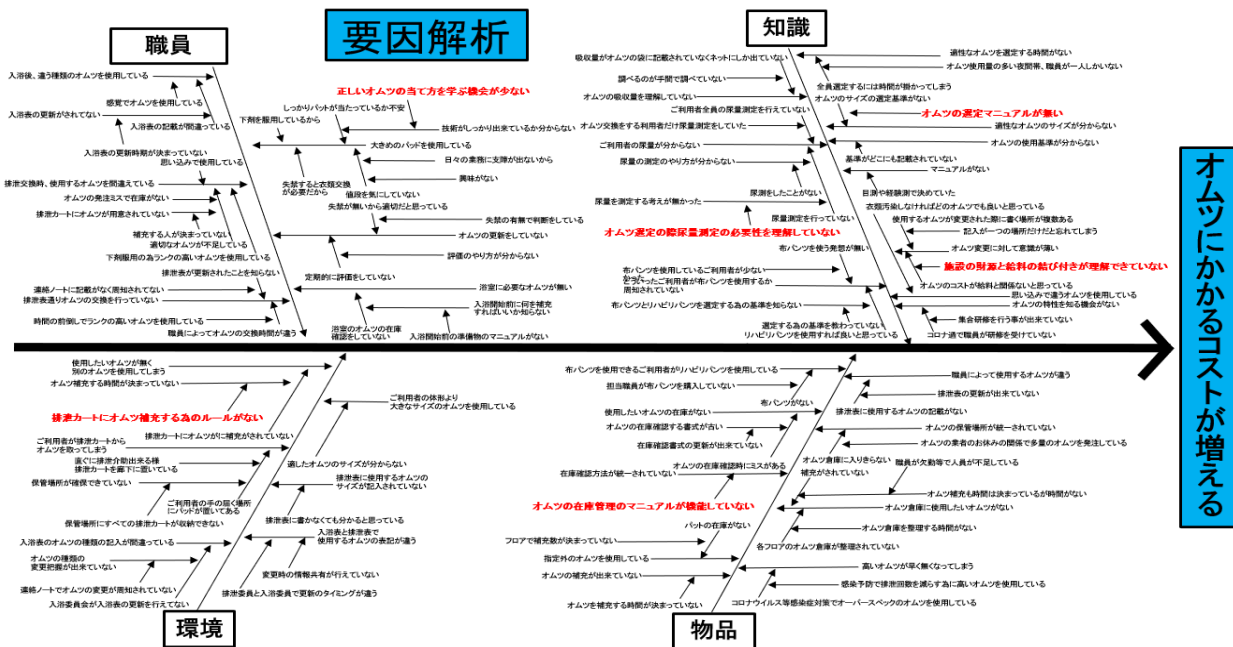
【現状把握】

目的	方法	内容	結果
年間、オムツのコストがいくら掛かっているか把握する為	納品書の金額を確認	令和3年 約500万円 令和4年 約 640万	1年で約140万増加
オムツ1枚当たりの値上げ額を把握する為		使用しているすべての種類のオムツ(14種)の1枚当たりの単価を算出	全ての種類のオムツが1枚当たり5円以上値上げ
職員がオムツの値段を把握しているか知る為(コスト意識があるか)	全職員にテスト実施	Q1、最も高額なオムツの種類は？ Q2、最も高額なおむつは？等テスト実施	Q1把握している職員は全体の4% Q2把握している職員は全体の1.8%
オムツの正しい当て方を知っているか把握する為	全職員にテストを実施	Q. オムツの正しい当て方を記述式にてテスト ※勤続年数にて層別	Q. 正解率37% ※勤続年数に比例して正解率が高い
オムツの吸収量を知っているか把握する為	全職員にテストを実施	Q. オムツ(全種類)の吸収量を記入式にてテスト	Q. 全種類の吸収量を答える事が出来た職員は0%
使用するオムツの種類を決定する際の判断基準を知っているか把握する為	全職員にアンケート実施	Q. オムツの種類を決める際、何を基準に決定していますか？	Q. 尿測を基準に決定する65% Q. 変更の度、尿測を実施0%
オムツ代に対してコスト意識があるか把握する為	全職員にアンケート実施	Q1オムツにかかるコスト(年間)を把握していますか？ Q2オムツ代が値上げされた事を把握していますか？	Q1. 把握している職員43% Q2. 把握している職員78%

【目標設定】

何を	オムツにかかっているコストを		
いつまでに	令和5年11月末までに	どうする	10%削減する(ひと月当たり)
根拠	現状把握で算出したオムツ代(ひと月当たり) 437,303円 値上がり前の金額 399,528円 差額37,775円(8.6%) 差額分の8.6%を上回る10%を目標とした		
チェック方法	チェック表を基に実際のオムツ使用枚数をカウント		

【要因解析】



【重要要因検証】

	重要要因	検証、結果	判定
①	オムツを補充する為のルールが決まっていない	全ての階で、オムツ補充に関するルールは決まっていなかった	○
②	オムツの在庫管理のマニュアルが機能していない	4名中3名の職員がマニュアル通りの発注を行えていなかった	○
③	オムツを選定する為のマニュアルがない	オムツの選定に関するマニュアルはなかった	○
④	施設の財源と給料の結びつきが理解できていない	現状把握より、真の要因でないと判定	×
⑤	オムツ選定の際尿量測定の必要性を理解していない	現状把握より必要性を理解していないと判定	○
⑥	正しいオムツの当て方を学ぶ機会が少ない	今年度の勉強は行われていない	○

【対策の立案】

重要要因		一次対策	二次対策	三次対策	四次対策	効果	コスト	時間	採
①	排泄カートにオムツ補充する際のルールがない	排泄カートにオムツ補充する際のルールを決める	排泄カートに必要なオムツの種類を決める	オムツ補充に関するマニュアルを作成する		○	△	△	11
②	オムツの在庫管理マニュアルが機能していない	オムツの在庫管理マニュアルが機能する	オムツの在庫管理マニュアルの見直しを行う	オムツの在庫管理方法を決める	オムツの在庫管理を定数管理で行う	○	△	○	13
③	オムツの選定マニュアルが無い	オムツの選定マニュアルがある	オムツの選定マニュアルを作成する	オムツの選定方法を決める	オムツの選定方法として尿量測定と腹部大腿部の周囲測定を行う	○	○	△	13
④	オムツ選定の際尿量測定の必要性を理解していない	オムツ選定の際の尿量測定の必要性を理解する	尿量測定の必要性が分かる資料を作成する	尿量測定の必要性に関する資料をフロアで周知する		○	○	○	15
⑤	正しいオムツの当て方を学ぶ機会が少ない	正しいオムツの当て方を学ぶ機会を増やす	正しいオムツの当て方を繰り返し学べる機会を作る	動画を準備し繰り返し学ぶ事ができる		○	○	○	15

11点以上を採用とした為、全て採用とした ○5点 △3点 ×1点

【対策の実施】

	誰が	いつ	何を	どこで	どうする
①	TQM委員	9月末までに	マニュアルを	施設内で	作成した
②	排泄委員	9月末までに	オムツの定数管理を	施設内で	行った
③	TQM委員	9月末までに	全ご利用者のオムツを	施設内で	見直した
④	介護職員	9月末までに	マニュアル動画を	フロア毎で	視聴した
⑤	介護職員	9月末までに	マニュアル動画を	各フロアで	視聴した

①オムツ補充に関するマニュアルを作成する

②オムツの在庫管理を定数管理で行う

③オムツの選定方法として尿量測定と腹部大腿部の周囲測定を行う

④尿量測定の必要性に関する資料をフロアで周知する

⑤動画を準備し繰り返し学ぶ事ができる

【効果の確認】

【対策前】

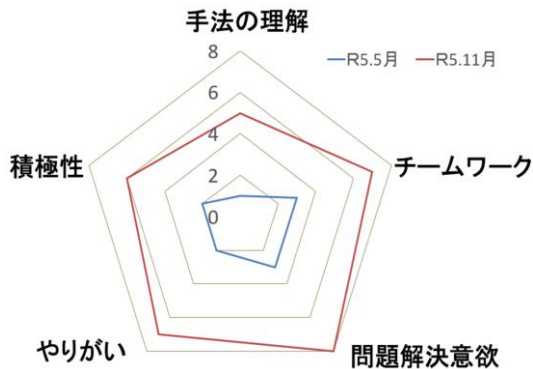
1Week	金額	2Week	金額	3Week	金額	4Week	金額	合計枚数	金額	
96	5,040	105	5,513	91	4,778	103	5,408	446	23,415	ハイS
243	13,389	236	13,004	249	13,720	222	12,232	1080	59,508	ハイM
10	633	9	570	7	443	2	127	30	1,899	ハイL
66	2,970	74	3,330	71	3,195	51	2,295	300	13,500	リハS
104	4,992	95	4,560	100	4,800	88	4,224	420	20,160	リハM
24	1,272	25	1,325	21	1,113	21	1,113	101	5,353	リハL
6	354	2	118	4	236	4	236	19	1,121	リハLL
168	2,772	131	2,162	123	2,030	104	1,716	582	9,603	尿取り
747	18,077	667	16,077	609	14,738	551	13,334	2889	70,083	オムツ
545	13,085	524	12,596	516	12,396	539	12,567	2153	78,867	オムツ

【対策後】

1Week	金額	2Week	金額	3Week	金額	4Week	金額	合計枚数	金額	
61	3,203	85	4,463	95	4,988	108	5,670	398	20,895	ハイS
158	8,706	187	10,304	184	10,138	179	9,863	807	44,466	ハイM
3	190	6	380	7	443	7	443	27	1,709	ハイL
51	2,295	69	3,105	55	2,475	57	2,565	252	11,340	リハS
38	1,824	57	2,736	48	2,304	62	2,976	229	10,992	リハM
15	795	13	689	14	742	19	1,007	74	3,922	リハL
1	59	0	0	1	59	2	118	4	236	リハLL
130	2,145	118	1,947	143	2,360	112	1,848	549	9,059	尿取り
723	17,497	751	18,174	726	17,569	675	16,335	3275	79,255	オムツ
346	9,169	379	10,044	337	8,931	327	8,666	1595	42,268	緑
497	15,805	546	17,363	517	16,441	489	15,550	2317	73,681	青
69	2,525	56	2,050	50	1,830	52	1,903	256	9,370	青スキャン
433	15,761	452	16,453	452	16,453	439	15,980	2016	73,382	紫
118	2,112	111	1,987	126	2,255	96	1,718	577	10,328	フラット
2643	82,085	2830	89,693	2755	86,987	2624	84,642	12376	390,902	合計

¥46,401 削減(目標達成率101%)

【無形効果】



【標準化と管理の定着】

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どのように
標準化	オムツの定数発注方法を	無駄なく行う為	排泄委員	1か月に1回	委員会	確認
教育	オムツの当て方を	正しく行う為	教育委員	半年に1回(4月10月)	各フロア	動画視聴を行う
管理	オムツの選定を	統一して行う為	排泄委員	3ヶ月に1回	委員会	マニュアル化

【反省と今後の進め方】

	手順	良かった点	改善点	今後の進め方
P	テーマの選定	経費の削減に絞ることでテーマの選定が早く行うことが出来た	テーマ選定時マトリックス図の候補が増える様多角的に考えても良かった	今後も改善できるテーマを多角的に選定する
	現状把握 目標の設定	データ取りの目的を明確化しデータを取る事が出来た	データ集めの選定に時間を要した為効率よく行えば良かった	TQMの手法をもっと勉強しデータ取りの選定に要する時間を短縮できるようにする
	活動計画 作成	計画と実施期間であまり差が生じなかった	コロナ禍だったという事もあり役割通りに進めなかったのが円滑な情報共有ができれば良かった	情報共有を円滑に行えるよう最適なツールの活用等を検討
D	要因の解析	チームで意見を出し合って解析できた	要因解析に更なる時間をかける	より深く掘り下げ解析をおこなっていく
	対策の検討と実施	施設全体で対策に取り組むことが出来た	対策の実施を行うまでに時間がかかってしまった	ゆとりをもって対策の実施を行っていく
C	効果の確認	目標を達成できた	効果の確認がギリギリになってしまった	より計画通りに進むようプランを作る際に考えて行う
A	標準化と管理の定着	マニュアル動画を作成することで繰り返し学ぶ環境を整えることができた	定着に関して定期的にチェックを行える仕組みを作れば良かった	排泄委員会と一緒に定着化を図る